

# SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter SMC 豊島 健治

## インターネット・ビジネスウェイ

(新しい道への通り方を模索する)

昨年9月このレポートで「インターネットの可能性」という判ったような判らないような文章を書いた。あれから未だ半年にもならないが、現実はず想像を上回るスピードで動いているようだ。

今では当たり前のFAXが1,000万機普及するのに22年かかったが、インターネットブラウザWWWが1,000万本売れるのにたった1年しかかからなかった。だからこれからインターネットが当たり前になるなどは云わないが、その可能性はあると考えておいた方がいいと思う。

私達は「新しい現実」が目の前に顕れてきた時、いつもそうした現実に関心を持ちながらも保守的な対応をすることが多い。インターネットはまさにそうした「新しい現実」であると私は思うが、それだけにインターネットに対する評価は過大評価から過小評価までいろいろあるようだ。

しかし評価はあくまで評価であり、現実の評価と関わりなく動いていく。その昔、ラジオが現れたとき新聞業界が猛反発したという話を歴史の教科書で学んだが、それと同じようなことは今でもあちこちに見られる。

問題は、反発する側はやがて衰退して行くことが多いということだ。日本の農業や金融そして大店法をめぐる流通の動きなどを見ると、特にその感を強くせざるを得ない。

私は一介の中年男でインターネットを語るに全く相応しくないかもしれないが、それでも少しでも役に立つのであれば語ろうと思う。現実にインターネットを経験して、そして関係する色々な本を読んで、このシステムがビジネスにどう繋がるかという視点で数回にわたってレポートしてみたい。

私がインターネットを利用する場合、目的は三つある。その内の一つである電子メールの利用について今回は述べてみたい。

このレポートの下部にも私の電子メールア

ドレス (f3583079@nv.aif.or.jp というヤツ) を記載しているが、電子メールで連絡や情報のやりとりをするケースがこれからかなり増えそうだ。

電子メールのメリットは、相手の居場所に拘わらず(海外でも)瞬時に送れる 手紙と比べコストが安く、大量の内容が送れる 必要があれば、簡単にプリントアウト出来る 送られてきたメールをそのまま転送も出来る 複数の先に一斉同時送信が出来る、等があげられる。

もちろん電話のように肉声は聞けないし、相手が確実に読んでくれるか確認のしようがないという欠点もあるが、電話とは機能が異なった通信手段であると思えばその利用価値は大きいと思う。インターネット一番のメリットはこの電子メールにあると云われる所以である。

しかしながら実際の所私のパソコンに登録してある電子メールアドレスはたった数件(正確にはパソコン通信も含め8件)に過ぎない。少数の人との連絡に使っているのが現状であるが、このアドレスを持つ人が増えればこの通信手段のメリットは飛躍的に拡大する。

例えば、このレポートはその名の通りFAXで送信しているが、その送信に約2時間を要する。もちろんFAXにも同報送信サービスがあることは承知しているが、コストが高いため利用していない。いずれ将来は電子メールで送信する時代がくると思っているが、その時はほとんど一瞬の内に全員に送信が可能となり、コストと時間が大幅に節約出来るだろう。

また最近では、新聞やビジネス誌への投稿や論文募集、懸賞の応募まで電子メールで出来るようになってきていることが多い。電子メールの持つメリットを考えれば当然のことだ。

これからは、この電子メールをマーケティングに使用する機会も拡大するだろう。そんな電子メール、あなたもアドレスを取得して名刺に刷り込んでみませんか。